

第1、近況、雑感

1. 読書速度に支障があると考えて、原則テレビは見ないし、パソコンも扱えないが、ニュースを見ようとすると、今月は五人衆が五月蠅い。自民党議員と党員だけに語れと言いたい。正に九月蠅だ。
2. 少し静かになったが、トランプはどうしてもノーベル賞を欲しいらしいが、私としては全く NO。予測不能の関税案と七つの戦争を終わらせたそうだが、就任後すぐに終わらせてみせると息巻いたロシアは今も続いている。「ノーベル賞から最も遠い男に与えることで、世界が平和になるのなら」という説も出ているが、あの日本人がもらった以上に平和賞を更に毒して良いものか考えてみませんか。
3. 明らかな報道は入手していないが、ウクライナ南部にある最大のロシアの加圧水路型原子炉6基のうちの一基が非常用電源の供給不足で故障が一週間も続いていて非常事態。復旧作業は戦時下、困難なようでメルトダウンの危機が迫っている可能性もあるのだろうか。
4. 広島・長崎・福島と不幸な体験を積んだ日本だが、好戦国が戦争省とまで看板を変えて、核の使用に向いそうな昨今、地球上の人間はどんな行動をとれるのか、とるべきか、人類だけでなく地球全体の存続に係わる大きな危険に向っていることだけは間違いないだろう。
5. 原発事故では Chernobyl(1986年)が有名だが、福島に較べると放射線量は 1 割以下と少ない。陸地内であったため小さな子供が多数、甲状腺被害を受け死亡の報道や後遺症の報告が続いた。
6. 私は今から 30 年前、<MINERA21>の原料を初めて開発した、東京北区のシマニシ科研の二代目社長に就任したことでのこの災害復旧に係わった一人。ある日本社のロシア支店長からの要請で、Chernobyl の放射能被害を受けた子供たちのためにモスクワ科学院へ<MINERA21>の原液を子供の治療のテスト用として 300 人分送り、一年後に多くの甲状腺疾患が健康を回復したとの報告を見せられる貴重な実感を得たことがあるのだが、このことも<MINERA21>を未だ販売し続けている遠因にもなっている。
7. 二度と核の災害はないと誰もが信じていた 25 年後、3.11 はかの国の 10 倍以上の猛威でわが福島で発生、全処理には 50 年かかるとか、諸物価高と騒ぐ前にこの国を貧しくしつつある遠因だろう。
8. しかしこの件はこれで終わらなかった。あの福島の放射能含みの産廃物を 2,500 億円の入札で請負った大手ゼネコンが、先の噂をたくみに聞きつけて、私を探し、利用申入れ来社するという、夢かと思わぬ経験をすることになった経過を報告します。
9. 要点は、モスクワ科学院のレポートを見て<MINERA21>の原液を福島で発生した放射能廃棄物の処理の可否テストをしたうえで使用させて貰えないか、ということであった。当社の条件としては 100 年の歴史のある日本最大の研究機関の理化学研究所と有名国立大学に資料提供し、放射能物質の除去実験の成果入手を条件に応諾した。
10. テスト結果は予想どおり、ストロンチウム、セシウムなど放射能物質の大部分

を除去ではなく、消滅させることができた。やがてこのことが原子力関係の政府担当部署の知るところとなり、全資料の提供に応じたが、結論として、ゼネコンも行政もその後まったく音信不通の状態。原液は1ccも使われることはなかった。放射能を含んだゴミはどこかに消えて、17mもある防波堤となつたのでもあろうか。その直後、何種類か核放射能災害用の製品を発表したが、販売する必要のない時代を待つのが正しいのかも知れない。

11. 暑さが去って、爽やかな季節。米の収穫が始まったのに、販米は値上がり。偉そうに断言をお兄さんは、今それどころではないようだ。70年前の人造米をご存知だろうか、その米を背にして修学旅行に行ったのだったか。「さわやかや 人造米に 玉子割る」(昭和28年頃、山形の句)
12. ついでにもう一句、「過ちは 過ちとして さわやかに」(高浜虚子)。国内70基の原発は過ちなどではない、明らかに人類の欲望罪だ。私は断じて許せない、許さない。

第2、 今月の報告文

- ・すさまじい人のすさまじい記録——福田須磨子『われなお生きてあり』
読んで出会ったすごい人 19 (斎藤真理子)

第3、 今月の再読本

- ・ 「原発暴走列島」今日のフクシマは明日どこでも起こる
(鎌田慧、2011.5.10、ASTRA 1,572円)
- ・ 「暴走する原発」チェルノブイリから福島へこれから起こる本当のこと
(広河隆一、2011.5.25、小学館 1,430円)
- ・ 「チェルノブイリ アメリカ人医師の体験」
(R.P.ゲイル・T.ハウザー、2011.8.18、岩波書店 1,496円)
- ・ 「東京が壊滅する日」フクシマと日本の運命
(広瀬隆、2015.7.16、ダイヤモンド社 1,760円)
- ・ 「戦争と平和 ある観察」(中井久夫、2015.8.20、人文書院 2,530円)

第4、 今月のことば

- 誰だって、自分の欲望、思想、苦痛を正確に示すことはできない。そして、人間の言葉は破れ鍋のようなもので、これをたたいて、み空の星を感動させようと思っても、たかが熊を踊らすくらいの曲しか打ち鳴らすことはできないのである。(フローベール)
- 人間のプライドの窮屈の立脚点は、あれにも、これにも死ぬほど苦しんだことがあります、と言い切れる自覚ではないか。(太宰治)
- 生に関する技術では、人間は、何物も発明しませんが、死に関する技術では、人間は自然を凌駕して、化学や機械の力で、悪疫、流行病、飢饉というような、あらゆる殺戮をお行っています。(バーナード・ショウ)

2025年9月30日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)